



大岩みょうごうとうの名号塔

■立派な名号塔です

旧緒川村の西部、大岩地区の一角に「南無阿彌陀佛」なむあみだぶつと刻まれた石塔が立っています。自然石を使用した、高さ1.68m、幅1.40m、厚さ33cmの立派なものです(写真1)。

「南無阿彌陀佛」は阿彌陀如来への帰依きえを示す言葉で、字数から「六字名号」ろくじみょうごうとも言われ、それを刻んだ石塔は「名号塔」と呼ばれます。

■位置は・・・

大岩集落を東西に貫く県道那須烏山御前山線を西に向かうと右手(北側)に三輪神社がありますが、小舟川を挟んでそのちょうど反対側(南側)の山裾に石塔はあります。

その場所は、今は廃寺となった西方寺の入り口にあたります。

■正面に刻まれた文字

「南無阿彌陀佛」は石塔の正面中央に大きな字で刻まれています。蓮弁座の上に刻まれており、名号が阿彌陀如来そのものとして意識されていたことがわかります。字体は独特で、「南」は下半が丸く作られ、「阿」と「陀」の阜偏こぶとへんの下端が右に屈曲し、「弥」の弓偏や「陀」「佛」の最終画が大きく撥ね上げられています。

その右下に小さな文字で「祐天」、その下に花押かおう(サイン)が刻まれています(写真2)。石に刻む際の下書きとなった名号を揮毫した僧侶の名前とその花押と考えられます。

■名号は祐天上人の筆跡

祐天(1637-1718)は、江戸時代中期の浄土宗の高僧で、通常「祐天上人」と敬称付きで呼ばれます。徳川



【写真1】大岩の名号塔



【写真2】「祐天」とその花押の部分

将軍家の菩提寺、芝増上寺の第36世大僧正になった僧侶で、第5代将軍綱吉の生母桂昌院をはじめ大奥の信仰も集めました。遷化せんか(逝去)前に弟子に念仏道場の建立を遺言したことから目黒に祐天寺が建立されますが、これには将軍家が多大な支援をしています。

祐天は名号を多数揮毫して寺や信者に授けており、その1枚が大岩での名号彫刻の下書きになったものと思われます。祐天の揮毫した名号や名号塔は各地に残っており、大岩の名号は独特の字体も花押もそれらと共通しています。

大岩の名号塔は江戸時代の名立たる高僧祐天上人が揮毫した名号を刻んで建立されたのです。

■建てたのは茂木の忠右衛門さん

背面には「延享元甲子年／三月吉日 當寺八世忍譽／下野国芳賀郡／坂井邑住／願主 忠右衛門」(／は改行)と刻まれています。延享元年(1744年)、西方寺住職忍譽の支援のもと、現在の栃木県茂木町坂井の住人忠右衛門が願主となってこれを建立したと理解できます。1744年というと祐天遷化後になりますが、高僧の筆跡での遷化後の建碑の例はほかでも見られます。

願主の忠右衛門はおそらく西方寺の檀家で、苗字や屋号が記されていないことから農民と思われます。おそらく多額の建碑費用を負担したのでしょうか、かなりの豪農だったのではないのでしょうか。

江戸時代の農民というと幕藩体制のもとで土地に縛り付けられカツカツの生活を強いられていたような印象がありますが、意外と広い行動範囲や情報網をもっていたいきいきと生きていたようです。

【謝辞】今回の取材では、佐藤一馬さん、佐藤守雄さん、堀江智人さん(以上、大岩地区)、小森哲也さん(栃木県真岡市)にご教示・ご協力をいただきました。御礼申し上げます。ありがとうございました。

【参考文献】祐天寺研究室編『寺宝で綴る祐天上人と祐天寺』宗教法人祐天寺 2005年、緒川村史編さん委員会編『緒川村史』緒川村 1982年

文化スポーツ課 ☎52-1111(内線344)